

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	陳 蘭庄								ICT活 用	○
授業概要	園芸生産環境専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としている。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育する。									
関連する科目	履修前後には「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」、「園芸植物育種概論」、「植物分子育種学」を中心に、園芸生産環境専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学ぶ。									
授業の進め方 と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマを例として、計画に沿って自分自身の中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がる。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がる。									
授業計画 【第1回】	以下の内容で講義を行う。ここから各自の卒業研究テーマに沿って論文を選び、活用して自分の卒論に用いる。 第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第2回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第3回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第4回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第5回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第6回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第7回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第8回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第9回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第10回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	陳 蘭庄								ICT活用	○
授業概要	園芸生産環境専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としている。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育する。									
関連する科目	履修前後には「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」、「園芸植物育種概論」、「植物分子育種学」を中心に、園芸生産環境専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学ぶ。									
授業の進め方 と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマを例として、計画に沿って自分自身の中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がる。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がる。									
授業計画 【第1回】	以下の内容で講義を行う。ここから各自の卒業研究テーマに沿って論文を選び、活用して自分の卒論に用いる。 第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第2回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第3回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第4回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第5回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第6回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第7回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第8回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第9回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第10回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									

授業計画 【第11回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第12回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第13回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第14回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第15回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業の到達目標	講義で解説したそれぞれの課題を例にして、履修生自身が自分の研究に対して、研究計画の立案、材料および方法、データのまとめ、図表の作成、結果に対する考察・評価など、研究論文の書き方に関した一連のノウハウを活用して自分の卒業論文のシミュレーションをレポートとして作成できることを目標とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。事前の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
授業時間外学習【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事後の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
課題に対する フィードバック	それぞれの研究テーマの中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。レポートは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	卒業論文の新規性（20%）、内容（20%）、まとめ方（20%）、完成度（20%）、発表（20%）などを総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、指示または指定する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus											
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科			
科目名称	専攻演習Ⅲ							授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	林 典生									ICT活 用	○
授業概要	決めた研究領域をまとめるには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて問いを生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を同じ研究室所属の学生との協働を通して段階的に実践することで、明確化した研究テーマや領域をまとめ、自分はこれらの研究成果をどうまとめるかを見出すことや研究成果を文章化させ他の人に伝えることを目的とする。 本授業の目的は、園芸福祉領域についてさまざまな視点から資料を収集・解析し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の完成へとつなげる。 授業では、園芸福祉に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深める。										
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅰ・Ⅱ、同時に卒業論文を履修すること。										
授業の進め方 と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。文献レビュー及び調査等の研究方法の講義を行うとともに、それらに関連するグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う。 場合により、外部機関・団体による講話・意見交換等をオンライン形式で実施する場合がある。 課題等の提出及びフィードバックは、ユニバのクラスプロファイル上で行う。										
授業計画 【第1回】	オリエンテーションー授業概要の説明 ゼミの進め方を理解し、各自の興味関心を探る。										
授業計画 【第2回】	追加調査等の実施 専攻演習Ⅱで設定した追加調査等を実施する。										
授業計画 【第3回】	追加調査等の解析 実施した追加調査等の解析を行う。										
授業計画 【第4回】	追加調査等の結果報告 解析を行った結果をまとめて、報告を行う。										
授業計画 【第5回】	調査報告等準備-図書館資料・論文等の資料収集 調査結果を報告するにあたり、追加する資料・論文の収集を行う。										
授業計画 【第6回】	追加資料・論文の発表・討論 追加収集した資料・論文に関するグループディスカッションを実施し、理解を深める。										
授業計画 【第7回】	中間発表 調査結果を報告し、今後の論文作成のための意見交換を行う。										
授業計画 【第8回】	論文作成準備 中間発表会の意見を踏まえ、調査結果等の整理を行う。										
授業計画 【第9回】	論文作成 整理した調査結果等に基づき、論文作成を行う。										
授業計画 【第10回】	論文内容検討 各自で作成した論文について発表を行い、意見交換を行う。										

授業計画 【第11回】	卒業論文内容修正 意見交換に基づき、卒業論文内容の修正を行う。
授業計画 【第12回】	卒業論文概要集・発表会資料作成 修正した卒業論文内容を踏まえ、卒業論文概要集及び発表会資料を作成する。
授業計画 【第13回】	卒業論文概要集・発表会資料修正 作成した卒業論文概要集及び発表会資料を発表練習して、修正を行う。
授業計画 【第14回】	卒業論文発表会 修正した卒業論文概要集・発表会資料に基づき、卒業論文発表会を行い、意見交換を行う。
授業計画 【第15回】	卒業論文修正・確認 卒業論文発表会時の意見交換に基づき、卒業論文修正を行い、確認を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸学における園芸福祉の知識と技術及び価値の応用的内容を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や集団討論を通じてディスカッション能力も含む総合的なコミュニケーション能力を向上させる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	授業で配布するテキストならびに参考図書・論文等の資料を授業前に精読し準備する。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業後にさらに理解を深めるために授業で配布したテキストならびに参考図書・論文等の資料を再度精読する。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却ならびに解説を行う。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート(100%)、但し欠席・遅刻・早退及び私語等の悪い授業態度は注意の上、減点とする。
テキスト	専攻演習時に別途資料を配布し、それに基づき実施する。
参考書	阿部幸大著 まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社 2024 久保川達也著 公式と例題で学ぶ統計学入門 共立出版 2024 その他の文献は授業中にて紹介する。
備考	この授業は第1回目開始前に受講生同士で話し合っ、実施曜日・時限を決めて行う。また、一部の授業は事前に連絡の上、別途日時を設けて実施する場合がある。 先方との都合次第により外部講師との意見交換や実践現場視察・活動体験等を行う場合がある。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	講義・演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長江 嗣朗							ICT活 用	○
授業概要	卒業論文で行う研究と関連した論文を読み解き、資料を作成して発表する。これを元にゼミ参加者で議論を行い、自分の研究に反映させる。卒業論文作成するための準備として、問題点や課題点について考察することにより、今後の自分自身の課題を解決できるようになることを目指す。								
関連する科目	3年生後期「専攻演習Ⅰ」、4年生前期「専攻演習Ⅱ」、4年生通年「卒業論文」								
授業の進め方 と方法	事前に資料を配布し、参加者でディスカッションを行う。また、配布する資料については、参加者が持ち回りで作成する場合もある。								
授業計画 【第1回】	はじめに 本授業における課題作成、その意義について説明する。								
授業計画 【第2回】	鉢物生産における文献紹介 1 国内における主要な花卉の鉢物生産についての論文を紹介する。								
授業計画 【第3回】	鉢物生産における文献紹介 2 国内における主要な花卉以外の鉢物生産についての論文を紹介する。								
授業計画 【第4回】	苗物生産における文献紹介 国内における苗物生産の論文を紹介し議論する。								
授業計画 【第5回】	切り花生産における文献紹介 1 国内における主要な花卉の切り花生産の論文を紹介し議論する。								
授業計画 【第6回】	切り花生産における文献紹介 2 国内における主要な花卉以外の切り花生産の論文を紹介し議論する。								
授業計画 【第7回】	卒業論文の中間発表 専攻生が持ち回りで発表する。								
授業計画 【第8回】	卒業論文の中間発表 2 専攻生が持ち回りで発表する。								
授業計画 【第9回】	卒業論文の中間発表 3 専攻生がそれぞれ取り組んでいる卒業論文についてお互いに状況を報告しあい、今後の実験の進め方について議論する。								
授業計画 【第10回】	希少植物における文献紹介 1 国内においてその存在が少なくなっている観賞植物を紹介する。								

授業計画 【第11回】	希少植物における文献紹介2 国内の絶滅の危機に瀕している植物を学修するとともに、その対策を検討する。
授業計画 【第12回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介1 バラ切り花の鮮度保持について。
授業計画 【第13回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介2 カーネーション切り花の鮮度保持について
授業計画 【第14回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介3 バラ、カーネーション以外の花卉の切り花の鮮度保持について。切り花はその種類によって、鮮度保持の方法が異なることを学修する。
授業計画 【第15回】	まとめ これまでの14回の復習を行う。
授業の到達目標	人前で論文を紹介、内容を説明できるようになる。【コミュニケーションスキルの育成】 論文に従軍に理解し、それを元に自分の研究を計画、遂行できるように能力を身に付ける。【知識・理解の獲得】、【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	発表要旨をまとめ、さらにわからない箇所を調べておく。(2時間)
授業時間外学習【復習】	授業を受講しても理解できなかったk+を自分自身で調べる。(1時間)
課題に対する フィードバック	発表時における説明不足、発表後に調べても理解できなかったことは、次回以降の授業で解説する。
評価方法・基準	発表要旨のまとめ方、発表時の態度など、取り組み方を総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	特になし。
備考	特になし。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康							ICT活用	
授業概要	この授業では専攻演習Ⅰ・Ⅱを発展させて、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の実践を学ぶ。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考える（問題解決型学習・PBL）。さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ、グループワーキング、フィールドワークも行う。教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。								
関連する科目	履修前に環境園芸概論、造園学概論、造園植栽論、敷地計画論、敷地計画論演習、都市緑地論、都市緑地論演習、専攻演習Ⅰ・Ⅱを、同時に卒業論文を履修すること。								
授業の進め方 と方法	1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。 2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。 3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。 4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。 5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトを用いながら、授業を行う。								
授業計画 【第1回】	【ガイダンス】 第01回：専攻演習Ⅲの概要説明と心得 専攻演習Ⅲの概要説明と心得について説明する。								
授業計画 【第2回】	【造園計画の学術研究】 第02回：造園計画の学術研究-1（学術研究について）								
授業計画 【第3回】	第03回：造園計画の学術研究-2（学術研究の計画）								
授業計画 【第4回】	第04回：造園計画の学術研究-3（学術研究の精度）								
授業計画 【第5回】	第05回：造園計画の学術研究-4（学術研究の実践）								
授業計画 【第6回】	第06回：造園計画の学術研究-5（学術研究の精査） 造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	【造園計画の研究成果とその応用】 第07回：造園計画の研究成果とその応用-1（研究と応用について）								
授業計画 【第8回】	第08回：造園計画の研究成果とその応用-2（研究成果の精査）								
授業計画 【第9回】	第09回：造園計画の研究成果とその応用-3（研究成果の利用）								
授業計画 【第10回】	第10回：造園計画の研究成果とその応用-4（研究成果の分析）								

授業計画 【第11回】	第11回：造園計画の研究成果とその応用-5（研究成果の考察） 造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ。
授業計画 【第12回】	【研究成果の発表法】 第12回：研究成果の発表法-1（研究発表の手法）
授業計画 【第13回】	第13回：研究成果の発表法-2（ディスカッション・プレゼンテーション） 研究発表の手法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	【纏め】 第14回：研究成果のまとめ方について
授業計画 【第15回】	第15回：専攻演習Ⅲのまとめと今後 ランドスケープ研究に関する全体像を把握する。
授業の到達目標	1. 造園学における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とする。 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学習【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	1. レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するWebレポート（100点） 2. 授業への取り組みも評価（授業態度によってはマイナス評価も行う）
テキスト	1. テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. （公社）日本造園学会：ランドスケープ研究（学会誌） 2. （公社）日本造園学会：ランドスケープ研究作品集（学会誌）
備考	造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。 1）まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマ（問題解決型学習・PBL）に、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。 2）また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。 ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用（グリーンインフラ社会実装・造園計画） ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用（都市緑地形成・都市経営・まちづくり） ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用（日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり）

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、都市景観や地域景観への認識を深めていく上での応用科目として位置づけられ、研究者として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高めることである。 景観関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地見学を中心に行う。 卒業論文執筆に必要な認識力や表現力ならびにプレゼンテーションの基礎的能力を身につけることが期待される。									
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、卒業論文が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	まず造園の基礎的概念や用語を復習する。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学ぶ。同時に、論文の書き方や注意点などのついても学んでいく。ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。									
授業計画 【第1回】	ガイダンス 演習の進め方、参考文献の紹介、言葉の定義の確認									
授業計画 【第2回】	景観論の歴史的展開 都市計画の進展とのかかわりを軸に説明									
授業計画 【第3回】	景観論の現状 昨今の景観についての社会的位置づけの考察									
授業計画 【第4回】	景観研究の現状 学会論文等を中心に研究の展開を考察									
授業計画 【第5回】	景観研究の事例 認知科学分野									
授業計画 【第6回】	景観研究の事例 色彩分野									
授業計画 【第7回】	景観研究の事例 その他分野									
授業計画 【第8回】	景観研究 景観実地調査1									
授業計画 【第9回】	景観研究 景観実地調査2									
授業計画 【第10回】	景観研究 データ整理									

--	--

ニシク

1

本授業の目的は、都市景観や地域景観への認識を深めていく上での応用科目として位置づけられ、研究者として要求される知識・技能・計画・性・情報収集能力・計算能力を高めることである。

景観関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地 見学を中心に行う。

まず造園の基礎的概念や用語を復習する。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学ぶ。同時に、論文の書き方や注意点などについても学んでいく。ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめてきた課題を報告し、意見交換をしながら学ぶという形式で、各分野の授業が行われる。

ガイダンス

具知論・歴史的具知論

--

景既天地調直云

データ整理

授業計画 【第11回】	景観研究 データ分析
授業計画 【第12回】	都市と景観研究 文献講読
授業計画 【第13回】	都市と景観研究 現況調査
授業計画 【第14回】	都市と景観研究 写真比較（変遷景観）
授業計画 【第15回】	都市と景観研究の今後 まとめ
授業の到達目標	1) 都市景観について体系的に学び、都市とはどんなものか、景観が都市の中でどのような役割を果たしているかを知る。【専門分野のスキル】 2) 都市景観の調査や計画にかかわる専門職人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素養を高める。【プレゼンテーション力】【実践力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの都市や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な都市や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めておく。ゼミ発表時は発表資料等を準備する。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は確認しておく。（約0.5時間）
課題に対する フィードバック	課題は、提出前にチェックを受けること。次回以降に返却する。必要に応じてコメントや書き込みを行う。
評価方法・基準	毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介する。主なものの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006 など ③後藤春彦：景観づくり論、学芸出版社、2007
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に説明する。

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	牧田 直子								ICT活 用	○
授業概要	この授業では造園学分野においての応用科目として位置づけ、授業では得られなかったことを学習すること、卒論のテーマをみつけることを目的とする。造園家として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高め、卒論に向けて論理的に分析し、記述する能力を身につける。自身が学んできた内容をふりかえり、ポートフォリオを作成する。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	既往論文を講読し、研究の意義役割を学ぶ。 研究方法の妥当性や応用性について考え意見を述べる。 テーマに沿って調べてきた内容をプレゼンテーションし、意見を述べ合う。 実際に庭園を見学し調査を行うこともある。 その他課題を行い、発表し、修正するなどを行っていく。									
授業計画 【第1回】	1 ガイダンス この講義の進め方、卒論までのプロセスなどを解説する。ポートフォリオ作成について説明する。									
授業計画 【第2回】	2 実習 フィールドセンター内の花壇や温室の植物の管理を行う。 庭園調査になる場合もあり。									
授業計画 【第3回】	3 論文総論 レポートとの違い、計画の立て方、既往論文の探し方について解説する。									
授業計画 【第4回】	4 研究総論 既往論文を講読する。論文の構成と論文マナーについて解説する。									
授業計画 【第5回】	5 研究総論② 別の視点で既往論文を選び講読する。論文の目的、研究方法、結果について解説する。									
授業計画 【第6回】	6 研究テーマの検討① 卒業研究について考え、その内容を発表する。その研究の役割や妥当性を指導する。									
授業計画 【第7回】	7 研究方法① アンケート調査とその分析方法について学ぶ。 庭園調査の場合もあり。									
授業計画 【第8回】	8 研究方法② 文献調査とそのまとめ方について学ぶ。図書館を利用する。									
授業計画 【第9回】	9 研究テーマの検討② 6-7を学習したうえで再度卒業研究内容や既往論文について発表する。 研究に関連するデータを収集する。 その研究の役割や妥当性を考察し、自身の研究テーマについて指導する。									
授業計画 【第10回】	10庭園調査（学外） 4年生の卒論調査に同行します。実際に調査も体験します。									

環境園芸学科

專攻演習Ⅲ

授業形態

演習

配当学年

実務経験教員

C

アクティブ
ラーニング

○

牧田 直子

ICT:	
用	

 Ω

授業概要

この授業では造園学分野においての応用科目として位置づけ、授業では得られなかったことを学習すること、卒論のテーマをみつけることを目的とする。造園家として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高め、卒論に向けて論理的に分析し、記述する能力を身に付ける。自身が学んできた内容をふりかえり、ポートフォリオを作成する。

関連する科目

授業の進め方 と方法

既往論文を講読し、研究の意義役割を学ぶ。
研究方法の妥当性や応用性について考え意見を述べる。
テーマに沿って調べてきた内容をプレゼンテーションし、意見を述べ合う。
実際に庭園を見学し調査を行うこともある。
その他課題を行い、発表し、修正するなどを行っていく。

授業計画
【第1回】

1 ガイダンス
この講義の進め方、卒論までのプロセスなどを解説する。ポートフォリオ作成について説明する。

授業計画 【第2回】

2 実習

フィールドセンター内の花壇や温室の植物の管理を行う。
庭園調査になる場合もあり。

授業計画
【第3回】

3 論文総論

レポートとの違い、計画の立て方、既往論文の探し方について解説する。

授業計画
【第4回】

4 研究総論
既往論文を講読する。論文の構成と論文マナーについて解説する。

授業計画
【第5回】

5 研究総論②
別の視点で既往論文を選び講読する。論文の目的、研究方法、結果について解説する。

授業計画 【第6回】

6 研究テーマの検討①
卒業研究について考え、その内容を発表する。その研究の役割や妥当性を指導する。

授業計画
【第7回】

7 研究方法①
アンケート調査とその分析方法について学ぶ。
庭園調査の場合もあり。

授業計画
【第8回】

8 研究方法②
文献調査とそのまとめ方について学ぶ。図書館を利用する。

授業計画
【第9回】

9 研究テーマの検討②
6-7を学習したうえで再度卒業研究内容や既往論文について発表する。
研究に関連するデータを収集する。
その研究の役割や妥当性を考察し、自身の研究テーマについて指導する。

授業計画
【第10回】

10庭園調査（学外）
4年生の卒論調査に同行します。実際に調査も体験します。

授業計画 【第11回】	11庭園調査（学外） 引き続き4年生の卒論調査に同行します。実際に調査も体験します。
授業計画 【第12回】	12ポートフォリオ作成 ポートフォリオについて、役割や作り方、使い方を解説します。ポートフォリオを作成します。
授業計画 【第13回】	13研究テーマに沿った資料作成① 検討している研究テーマに沿って必要なデータを取得、あるいは文献調査を行ってまとめる。 不足分やさらに調べるものについて指導を行う。
授業計画 【第14回】	14研究テーマに沿った資料作成② 13で不足したもの、追加の情報を得てまとめる。内容について添削指導する。
授業計画 【第15回】	15ポートフォリオ提出 ポートフォリオの内容について発表する。
授業の到達目標	卒業研究を行うための準備として、研究の流れを理解し、研究課題の決定、研究方法の検討、予備調査などを行うことを目標とする。 また、専門的知識の深化を目標とする。
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	論文検索、および論文講読、資料となる書籍の講読、インターネット調査など、週単位で2~3時間行う。
授業時間外学習【復習】	講義後の課題に応じて、論文検索、および論文講読、資料となる書籍の講読、インターネット調査など、週単位で2~3時間行う。
課題に対する フィードバック	講義の際に個別に行う。
評価方法・基準	課題に対する進捗度50%、理解度50%、全体で100%。
テキスト	よくわかる卒論の書き方[第2版]（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）単行本 - 2013/2/10 白井利明（著）、高橋一郎（著） その他都度提示する
参考書	作品選集 技術報告集 ランドスケープ研究（日本造園学会） など
備考	J-STAGEを利用を推奨する https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	日高 英二								ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅱで行った卒業研究を引き続いて行う。調査研究の継続と中間報告で明らかになった新たな課題を補足する調査研究を行う。また、定期的に報告会を実施し、研究相互の意見交換を行う。データ整理や報告会を通じて必要な表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの操作法を習得する。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	決定した卒業研究のテーマに従って調査研究を行う。要所でデータ分析や中間検討を行い、その結果をもとに調査研究の進め方の修正をする。									
授業計画 【第1回】	調査計画の再検討・修正									
授業計画 【第2回】	調査研究1：調査対象の細部調査1									
授業計画 【第3回】	調査研究2：調査対象の細部調査2									
授業計画 【第4回】	調査研究3：調査対象の細部調査3									
授業計画 【第5回】	調査研究4：調査対象の細部調査4									
授業計画 【第6回】	データ整理									
授業計画 【第7回】	中間報告会									
授業計画 【第8回】	補足調査・分析1									
授業計画 【第9回】	補足調査・分析2									
授業計画 【第10回】	データ分析1：作図									

2025年度

開講キャンパス

都城キャンパス

開設学科

環境園芸学科

科目名称

專攻演習Ⅲ

授業形態

演習

科目コード

710095

单位数

2單位

配当学年

実務経験教員

アクティブ
ラーニング

0

担当教員名

日高 英二

ICT:	
用	

 Ω

授業概要

専攻演習Ⅱで行った卒業研究を引き続いて行う。調査研究の継続と中間報告で明らかになった新たな課題を補足する調査研究を行う。また、定期的に報告会を実施し、研究相互の意見交換を行う。データ整理や報告会を通じて必要な表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの操作法を習得する。

関連する科目

授業の進め方 と方法

決定した卒業研究のテーマに従って調査研究を行う。要所でデータ分析や中間検討を行い、その結果をもとに調査研究の進め方の修正をする。

授業計画
【第1回】

調査計画の再検討・修正

授業計画
【第2回】

調査研究1：調査対象の細部調査1

授業計画
【第3回】

調査研究2：調査対象の細部調査2

授業計画
【第4回】

調査研究3：調査対象の細部調査3

授業計画
【第5回】

調査研究4：調査対象の細部調査4

授業計画
【第6回】

データ整理

授業計画
【第7回】

中間報告会

授業計画
【第8回】

補足調査・分析1

授業計画
【第9回】

補足調査・分析2

授業計画
【第10回】

データ分析1：作図

授業計画 【第11回】	データ分析2：作表
授業計画 【第12回】	中間検討1：結果とデータ分析
授業計画 【第13回】	中間検討2：考察・引用分析
授業計画 【第14回】	今後の研究の展望
授業計画 【第15回】	総合考察
授業の到達目標	調査研究を通じて情報収集能力・データ整理能力を高めることを目的とする。また、データ整理や発表会によって表現力やプレゼンテーション能力の向上させる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	卒業研究のテーマに関する文献等を収集し、その内容を理解する。(週30分程度)
授業時間外学習【復習】	調査データの速やかな整理、図表作成を行う。(週30分程度)
課題に対する フィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。
評価方法・基準	調査研究進捗報告100点
テキスト	資料配布
参考書	研究関連文献
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方								ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。また、論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、プレゼンテーション能力を養う。卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、解析などの理解を深める。									
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 以下に示す計画は目安であり、年度ごとのメンバーの興味や資質もあるので、下記の内容と同じとは限らない。									
授業計画 【第1回】	研究論文探索 興味のある研究を探す練習を行います。									
授業計画 【第2回】	研究計画検討１： 研究室で取り組む対象地域を決定します。									
授業計画 【第3回】	研究計画検討２： 対象地域の調査を行います。									
授業計画 【第4回】	論文読解 1 研究対象地域に関する研究として文献を読みます。									
授業計画 【第5回】	論文読解 2： 研究対象地域の自然立地的土地利用に関する研究について文献を学習します。									
授業計画 【第6回】	論文読解 3： 造園学原論・造園史に関する研究を行います。									
授業計画 【第7回】	論文読解 4： 緑地機能に関する研究を行います。									
授業計画 【第8回】	論文読解 5： ランドスケープ・エコロジーに関する研究について学習します。									
授業計画 【第9回】	論文読解 6： ランドスケープ解析に関する研究について学習します。									
授業計画 【第10回】	論文読解 7： 最新情報への更新を行います。									

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方								ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。 また、 論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、 プレゼンテーション能力を養う。卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、 解析などの理解を深める。									
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 以下に示す計画は目安であり、年度ごとのメンバーの興味や資質もあるので、下記の内容と同じとは限らない。									
授業計画 【第1回】	研究論文探索 興味のある研究を探す練習を行います。									
授業計画 【第2回】	研究計画検討１： 研究室で取り組む対象地域を決定します。									
授業計画 【第3回】	研究計画検討２： 対象地域の調査を行います。									
授業計画 【第4回】	論文読解 1 研究対象地域に関する研究として文献を読みます。									
授業計画 【第5回】	論文読解 2： 研究対象地域の自然立地的土地利用に関する研究について文献を学習します。									
授業計画 【第6回】	論文読解 3： 造園学原論・造園史に関する研究を行います。									
授業計画 【第7回】	論文読解 4： 緑地機能に関する研究を行います。									
授業計画 【第8回】	論文読解 5： ランドスケープ・エコロジーに関する研究について学習します。									
授業計画 【第9回】	論文読解 6： ランドスケープ解析に関する研究について学習します。									
授業計画 【第10回】	論文読解 7： 最新情報への更新を行います。									

授業計画 【第11回】	データ分析 1 : 作図をします。
授業計画 【第12回】	データ分析 2 : 作表をします。
授業計画 【第13回】	第一次中間検討 1 : 結果とデータ分析を行います。
授業計画 【第14回】	第一次中間検討 2 : 考察・引用分析を行います。
授業計画 【第15回】	結果のまとめ 半年間のまとめと最終課題を提出します。
授業の到達目標	1. 自らが取り組む卒論テーマに関連した研究論文を読解し、論文から事実を把握す力、要点をまとめる力を身につける。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【実践力】 2. 明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高める。 【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	事前に提示するプリントに目を通す。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	当日の内容の振り返りをし記録をとる。(30分程度) 課題を行う。
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行う。
評価方法・基準	レポート(100点)
テキスト	
参考書	購入しなくてはならないということはありませんが、参考になります。 「眼を養い手を練れ」、宮脇塾講師室編著、彰国社、2003 「旅でスケッチしませんか」、永沢まこと、講談社、1998 「庭のデザインと設計」、星進、池田書店、1975 「雑木林が創り出した景色」、岡島直方、2005
備考	卒業論文、卒業施工・設計の報告書などを書く時に必要となるまとめ方の基礎を取り扱う。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	姜 くら							ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅲで得た知識を卒業論文作成に活用できるように、更に深化する。								
関連する科目	履修前：農業経済学ⅠⅡ、農産物流通原論、農産物流通論、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ 履修と同時に：卒業論文								
授業の進め方 と方法	食料・農業に関するテーマをゼミ生が自主的に選び、発表する。また、ゼミのメンバーが議論する。								
授業計画 【第1回】	1. 食料に関するテーマ								
授業計画 【第2回】	1. 食料に関するテーマー続きー								
授業計画 【第3回】	1. 食料に関するテーマー続きー								
授業計画 【第4回】	1. 食料に関するテーマー続きー								
授業計画 【第5回】	1. 食料に関するテーマー続きー								
授業計画 【第6回】	2. 農業に関するテーマ								
授業計画 【第7回】	2. 農業に関するテーマー続きー								
授業計画 【第8回】	2. 農業に関するテーマー続きー								
授業計画 【第9回】	2. 農業に関するテーマー続きー								
授業計画 【第10回】	2. 農業に関するテーマー続きー								

授業計画 【第11回】	3。食料農産物貿易に関するテーマ
授業計画 【第12回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第13回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第14回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第15回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業の到達目標	食料・農業、食料農産物貿易を理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
授業時間外学習【復習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
課題に対する フィードバック	教員も議論に参加する。
評価方法・基準	発表(50%)や討論(50%)で評価する。
テキスト	無い
参考書	農業および経済関連政府機関、研究機関のホームページ。WTOおよびFAOのホームページ。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭								ICT活 用
授業概要	専攻生各自が、卒業論文テーマに対する国内外の文献を探して、その文献について詳しく紹介する。同時に卒論作成に当たり、その文 献と考察との関連性についてわかりやすく発表できるようになることを目的とする【汎用的技能の育成】。								
関連する科目	4年次前期の専攻演習Ⅱに引き続いて行う。								
授業の進め方 と方法	毎回、専攻生が各自の卒論に関する文献を紹介し、その内容を簡潔に発表する【汎用的技能の育成】。その後、ディスカッションしな がら学びを深める。本授業は、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング 形式とする。								
授業計画 【第1回】	第1回 ガイダンス（スケジュール、評価、概要説明） 授業のスケジュールおよび評価方法、概要を説明する。								
授業計画 【第2回】	第2回 論文紹介および発表1 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第3回】	第3回 論文紹介および発表2 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第4回】	第4回 論文紹介および発表3 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第5回】	第5回 論文紹介および発表4 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第6回】	第6回 論文紹介および発表5 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第7回】	第7回 論文紹介および発表6 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第8回】	第8回 論文紹介および発表7 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第9回】	第9回 論文紹介および発表8 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第10回】	第10回 論文紹介および発表9 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								

授業計画 【第11回】	第11回 論文紹介および発表10 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第12回】	第12回 論文紹介および発表11 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文紹介および発表12 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第14回】	第14回 論文紹介および発表13 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第15回】	第15回 論文紹介および発表14 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業の到達目標	国内外の果樹栽培に関する動向を理解するとともに、要点をまとめて発表できるようになることを目標とする。【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	次の論文を読み、知識を深めておくこと（約1時間）。
授業時間外学習【復習】	授業で読んだ論文に関する参考文献を調べ、より理解を深めること（約1時間）
課題に対する フィードバック	毎回、発表についての指導を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 受講態度-50点 2) 発表内容-50点
テキスト	特になし（毎回資料を配布する）
参考書	特になし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ							授業形態	演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介								ICT活用	
授業概要	本科目は、専攻演習Ⅱと同様な方法で講義を進め、単に人前で話すだけでなく、わかりやすく、納得してもらえる発表方法を学ぶことを目的に行う。									
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅱを受講すること。履修後は履修を必要とする科目はない。									
授業の進め方と方法	毎回、アクティブラーニング型授業を実施する。毎回の授業は、まず発表担当者が発表を行い、その後、受講者全員から質問を受け、それに対して発表者が明確、端的に答えていく方法で行う。									
授業計画【第1回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第2回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第3回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第4回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第5回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第6回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第7回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第8回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第9回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									
授業計画【第10回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。									

授業計画 【第11回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第12回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第13回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第15回】	受講者による発表 (1回につき2～3名程度が担当する)。 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の到達目標	単なる人前で話す方法を学ぶだけでなく、理解あるいは納得してもらえる話し方を体得する【汎用艇能力の育成】【志向性の育成】。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	人に理解してもらえるプレゼンテーションとは何かについて各自で勉強する(約1時間)。
授業時間外学習【復習】	プレゼンテーション時に指摘された事項について検討し、次回に備える(約1時間)。
課題に対する フィードバック	各プレゼンテーションに対して講評する。
評価方法・基準	プレゼンテーションの内容(50点)、質疑に対する対応力(50点)
テキスト	毎回、発表者が準備する。
参考書	論理的にプレゼンする技術、「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	環境園芸学科			
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験担当教員			Active・L	○
担当教員名	山口 健一							ICT活用		
授業概要	受講生の各課題テーマについて、研究の背景、実験材料および方法、発表時までの実験結果および考察を纏め、学会方式でプレゼンテーションできる力を養うことを目的とする。									
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文									
授業の方法と進め方	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを実施する。本授業では、受講生と担当教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。									
第1回	0 1. 授業の進め方 受講生各自の課題を決め、プレゼンテーション方法について説明する。									
第2回	0 2. プレゼンテーションの実例 教員あるいは上級生によるゼミ発表と質疑応答									
第3回	0 3. 課題に対するプレゼンテーション 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第4回	0 4. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第5回	0 5. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第6回	0 6. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第7回	0 7. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第8回	0 8. まとめⅠ（総括） 前半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。									
第9回	0 9. 課題に対するプレゼンテーションⅡ 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第10回	1 0. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第11回	1 1. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第12回	1 2. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第13回	1 3. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第14回	1 4. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
第15回	1 5. まとめⅡ（総括） 後半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。									
授業の達成目標	各卒業論文の課題テーマについて、結果の纏め方および学会発表する力を身につける。									
学位授与方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力－(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力－(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(3)									

授業時間外学習【予習】	次回の課題テーマを予めアナウンスするので、各自で予習を行う。(30分程度)
授業時間外学【復習】	授業で用いた課題テーマについて受講生各自で毎回復習する。(1時間程度) なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して自ら学びを深める。
課題に対するフィードバック	各課題テーマのプレゼンテーションや質問について、優れている箇所や改善が必要な点などを理由を付して都度講評する。
評価方法・基準	各課題テーマに対して理解度および発表力（50点）を、その他については質問の的確さおよび受講態度等（50点）を総合的に評価する。
テキスト	受講生各自の課題テーマについて、第1回授業で発表、配布する。
参考書	各回の課題に関する書籍・論文等を適宜紹介する。
備考	